

資料. 岩見沢の神社・寺院

～先人への敬愛と心の拠り所～



(1). 市街中心地域 西

岩見沢神社 12条西1丁目

御祭神・天照大神 大己貴神

明治17、8年の両年にわたり山口・鳥取等12県下の士族帰農者277世帯の人々、開拓に入地したのであったが何分にも2ヶ年にわたり点々として来住したのと、刀を鋤に持ち替えたとは言え文字通り斧鉞の入らぬ原始林で、其の作業の予想外の困難性に婦女子等郷愁にかられ人心浮動の折柄明治18年秋8月総員の入地を機会に、今の元町幾春別川左岸（狩野橋上流）に多数の村民が参加して、大いに神祭りを行ったのが当社の始めで、当時は気温も低く降雪も間近であったため翌明治19年小祠を建て心の寄り所和楽の柱と氏神祭りを最大の年中行事として人心の安定融和の下に着々と開拓の歩を進め今日隆盛の基礎をつくったのであった。明治30年敬神家石黒長平氏より市街東南方高燥の地に1835坪の寄進を受け造営を始めると共に公式手続きを進め、同年9月14日二代目社殿の上棟式を挙行。爾来9月15日を例祭日と定め名実共に鎮守様として尊崇し奉る。明治39年には道路等の関係もあり東向に新殿を造営。昭和7年縣社に列格と共に四代目御社殿が風格厳かに御造営になる。昭和9年移住者名彫刻の御神鏡奉納。昭和56年、95年に当り北海道初の薪能を植田栄親弥宜主管により奉納。昭和60年12月18日新装成れる第五代御社殿に正遷座祭を斎行。昭和61年8月5日創祀百年大祭斎行。神宮薬師に依り舞楽を奉納、崇敬の実愈昂る。



白竜神社 9条西15丁目

利根別川右岸沿い 一心橋傍

昭和12年 白龍神堂 新築

昭和27年 河川改修で現在地に移転

平成 3年 新社殿落成



願勝寺 3条西8丁目

開創 大正四年四月



禅洞寺 7条西6丁目

開創 明治三十一年一月十日



聖徳寺 4条西10丁目
開創 明治四十三年八月



本妙寺 東山町地区



知道寺 春日町地区
開創 昭和36年12月9日



願王寺 6条西4丁目
開創 明治23年9月



妙福寺 駒園地区



(2). 市街中心地域 東

東神社 東町地区

御祭神・徳川家康公 池田忠継公

池田光仲公 池田慶徳公

池田忠雄公

合祀 大国主大神

明治三十三年四月当時鳥取県より移住せる藩士等により創立無格社として出願。社号を鳥取神社と称し移住藩士等の信仰を集めていた鳥取県因幡国鎮座県社樗谿神社の神霊を奉斎し、六月に認可を得て九月には神殿が落成。明治三十九年六月東神社と社号を改称した。明治四十年二月火災により社殿焼失等の事あり同四十一年再建した。



宗忠神社 栄町地区
御祭神・天照大神 八百萬神
教祖宗忠神
 開創 明治三十三年三月二十七日



御嶽神社 2条東4丁目
御祭神・国常立大神 大己貴神
少彦名神外三神其他天神地祇
 開創 昭和三年十二月 教会認可



相馬神社 日の出町地区
御祭神・天之御中主大神

明治四十五年頃上志文八号の沢に荒井仁太郎氏祠を
 建立。後に織田和一郎氏管理となるが、三田村、山岡、
 佐藤、坂本、大島、森各氏が貰い受け、岩見沢市六条西
 五丁目に移転。大正八年頃相馬神社神殿となる。その後
 種々の事情から四条東十三丁目、五条東十五丁目を経て
 現在地に落ち着く。昭和三十六年札幌平岸の相馬神社より
 御分霊を奉載。五十四年岩見沢神社境内社として法人
 化。六十一年従前相馬神社の祭神を安鎮合祀。



岡山神社 三笠市岡山
御祭神・応神天皇 神功皇后

明治二十四年五月創祀。三笠の岡山地区は岩見沢の岡
 山と隣接し、郷里も同じような人が多いということで、
 合同して宇佐八幡宮に祀られる神を祀ったのが始めで
 ある。



法然寺 1条東6丁目
 開創 明治三十三年三月二十六日



東漸寺 1条東7丁目
 開創 明治二十一年四月八日



阿弥陀寺 4条東3丁目
開創 明治十八年六月頃



応玄寺 7条東10丁目
開創 明治二十三年六月



明了寺 7条東12丁目
開創 明治十八年十月十日



明心禅寺 7条東1丁目
開創 昭和七年十二月二十日



常巖寺 7条東5丁目
開創 大正六年四月十三日



醫王寺 日の出台1



浄敬寺東町支院 東町地区



長高寺 11条東1丁目
開創 明治三十二年五月一日



(3). 幾春別川右岸地域

大願神社 大願町地区

御祭神・天照大神

明治二十七年、福井県人後藤岩吉氏が開拓従事中に奉祭し、中林太郎、宮浦喜太郎両氏の土地寄進により当地に鎮座。大正十四年深田盛吉氏より土地の寄進を得て宮浦義直氏等が改築。



稔神社（旧東川向神社） 稔町地区

御祭神・天照大神

明治十八年東一に士族移住の今井元三郎氏が移り開拓したのが始めて、最初川向と称したが東川向、川向に分かれ更に合併して東川向と称す。神社は明治二十五年五月建立され、後に山崎神社、地神宮を合併、一反二畝歩の現在地に流れ造りの本殿九坪の社殿を造営、昭和六十年九月に社殿新築、それと同時に社名を東川向神社から稔神社に変更、同月七日に遷座齋行今日に至る。



出雲神社（青木神社） 西川町地区

御祭神・天照大神 大国主神 事代主神

明治二十五年青木利一氏を始め岐阜県人十戸が開墾に着手したのが始めて、明治四十二年四月一日出雲神社を設立し尊崇した。本殿別棟拝殿八坪の社殿を造営し亀甲大の神紋を堤燈、幕等に配す。二代目青木三哉氏より境内地六四三坪の提供を受け更に石狩川の銘石二個を参道に配し其の自然美を誇る等、農場の隆盛と共に盛大となった。創設者青木利一氏、二代目青木三哉氏遺徳を将来に仰ぐ為、記念彰徳碑を建立し今や青木神社としても親しまれている。



越中開墾八幡神社 西川町地区

御祭神・八幡大神

この地に入植した草分移住者（富山県人）が明治二十四年九月枝の裂けた木に御幣をつけ祭ったのがその源で、二十六年に神社社殿が創立され、御神体は三枝治郎右エ門氏生国より奉遷。現在の社殿は昭和九年の造営。拝殿九坪、本殿一坪、境内地一反六畝。平成二年八月十八日本殿修理の為仮遷座祭齋行。平成十六年十二月暴風の為本殿の足が折れ傾く。同月に修理す。（十二月九日仮遷座 十三日本殿へ遷座。）



赤川神社 西川町地区



小神社 西川町地区

岩見沢土地改良推進事務所敷地内



大願寺 大願町地区

開創 大正二年四月二十七日



光明寺 北本町地区

開創 昭和二十三年十一月十八日



(4). JR函館本線沿線 ～ 幌向川下流沿岸地域

御茶の水神社 御茶の水町地区

御祭神・天照大神

明治二十八年川合定吉氏の土地寄進にて祠を設ける。明治三十年板垣賛市改めて伊勢神宮より御神符を拝受して五十鈴神社として奉祭、明治三十三年、同四十三年の改築改修を経て昭和十五年紀元二千六百年事業として大改築、昭和五十三年鋼管製大鳥居を町内で奉納する。昭和五十六年田中友一郎氏寄進により社殿屋根窓の改修、昭和五十九年社殿内装及び境内施設を御茶の水老人クラブ、町内会有志により奉納。



上幌向神社 上幌向地区

御祭神・天照大神 八幡大神 大己貴神

上幌向町は明治十九年依田伊之吉氏の入植が始めと伝えられ、同二十九年九月鉄道南に豊原神社を建立する。また同三十二年頃北に日吉神社を建立したが、大正二年三月、氏の所有地に二社を合祀した。昭和六年九月八日社殿を建立し上幌向神社となる。昭和四十四年社殿を大改修する。平成十二年九月七日、新社殿を建立する。



中幌向神社 中幌向町地区

御祭神・天照大神

明治二十三年、先人この地に入り、厳寒と困苦欠乏に耐え開拓に当たり、現十二号国道東五号附近に小祠を建てたのが中幌向神社の創祀である。明治三十七年、南二線東六号より池田宅次郎氏より土地の奉納を受け社殿を建造せり。大正七年、永年の風雪によるいたみ激しく同地に新築造営。昭和七年、境内の周囲が造田されたため、土地の奉納を受け現在地に遷座。昭和五十七年、戦中戦後半世紀の星霜を経て社殿を改修する。



幌向神社 幌向南地区

御祭神・天照大神

明治十五年石川県人原田喜助氏が現北村砂浜地区川沿いに入植したのが最初とされている。鉄道の開通に伴い逐次住民の定着を見、市街が形付けられるに及び地域の発展と住民の幸せを願って神社建立の議起り明治二十四年頃祠を建てて奉祀す。大正六年土地の寄進を受けて現在地に社殿を新築する。昭和五十五年幌向町開基百年事業の一環として社殿新築落成を見る。



金子神社 金子町地区

御祭神・宇迦之御魂神

当地区は明治二十七年貴族院議員金子元三郎氏が貸し下げを受け、金子農場を開いたことに始まる。同二十九年、境内地に十八坪の社殿を建て金子神社が創祀された。その後戦時中志文神社に合併されたが、村民の深い崇敬により昭和三十四年社殿を新築し遷座再建する。



三上神社 金子町地区



下志文八幡宮 下志文町地区

御祭神・天照大神 二俣大神

明治二十八年山根幸太郎氏が郷里の島根県岩見国那賀郡上府村に赴き出生地の鎮守たる八幡宮に参籠祈願し御神霊を奉受して帰り居村の護神として奉迎創祀する。昭和四年鳥居奉納、昭和十八年二俣神社を合併、昭和二十一年協和小学校奉安所を移して本殿に充て、昭和四十六年社殿改築される。



志文神社 志文地区

御祭神・天照皇大神

明治二十七年、冷水の坊主山に神祀を設け祭祀する。大正六年、現在地に遷座する。昭和五十六年、岩見沢神社に寄進して境内社となる。境内に豊穰に神「稲荷社」と地神宮を祀る。



龍光寺 志文地区



静雲寺 志文地区

開創 大正二年四月九日



廣隆寺 幌向南地区
開創 明治二十六年



善光寺 幌向南地区
開創 明治二十六年



本向寺 幌向南地区
開創 明治二十四年二月



隆王寺 上幌向地区
開創 明治二十六年



(5). 幌向川上流沿岸地域

上志文八号神社 上志文地区
御祭神・天照大神

明治三十年本田幸彦氏栗沢町砺波より農場開設にあたり奉迎する。創祀当時は志本神社と称した。明治三十五年四月十八日落成。大正八年八月改築。境内には福寿草の群生や桜の大木があり花見で賑わった。昭和五十四年内装及鳥居を奉納。境内地は五畝歩で高柳廣蔵氏の寄附による。



五桂神社 志文地区
御祭神・天照大神 大国主命

明治二十八年、幌向川沿岸に創祀。明治三十年現在地に遷座。渡場神社・岩見沢神社拝所とも称す。昭和六十年全面改築、水道を施設。



三之沢神社 上志文地区

御祭神・木花咲耶姫神

明治二十八年代萱野側より市来知監獄によって開拓が進み、昼尚暗き密林の野又野の大きな沢からこの一帯を野々沢と呼んだが、最初の小沢を一之沢、次二之沢、三之沢と。名付けたこの三之沢に後年入植した今井重二氏、小木竹松氏、山崎真八氏等により明治三十八年創祀される。その後明治四十五年、昭和三年に改築される。



金毘羅神社 上志文地区

御祭神・天照大神 金毘羅神

明治三十年、奥芝伊助氏等により勝見コツ氏寄贈の当地に奉祭創祀する。通称五号神社と言われている。



朝日神社 朝日地区

御祭神・天照大御神

明治二十九年、徳島県人が天照大御神の分神を奉載して入植し、同三十年に神社を創祀する。昭和十八年炭鉱の守護神「山神」と合祀して、朝日神社と命名する。昭和四十九年十一月、炭鉱閉山により山神社を分離して現在に至る。



美流渡八幡神社 美流渡地区

御祭神・誉田別尊 比売神 大帯姫命
建御賀豆智神 伊波比主命
天之子八根命 大国主命
茅野姫命 大山祇命

明治三十三年頃、板東農場に移住した人達が一の沢付近に小さな社を建て誉田別尊、比売神、大帯姫命を祀ったのに発している。大正五年、現在地に遷宮され、同十三年に神明造りの社殿を新築し、岩見沢側にあった春日神社を合併して、建御賀豆智神、伊波比主命、天之子八根命、比売神を合祀した。さらに昭和五年、東幌内鉱にあった大山神社の大国主命、茅野姫命、大山祇命を合祀し、地区唯一の美流渡八幡神社となった。



毛陽神社 毛陽地区

御祭神・木花佐久夜比売命

明治二十八年群馬県より高柳廣蔵氏が毛陽に入地する。明治三十年に至り住民幌内神社に勧請を依頼して、同社の御祭神大山祇神・鹿屋野姫の御娘神であられる木花佐久夜比売命を奉斎し現在に至る。創祀当初は滝の上神社と称す。



万字炭山神社 万字地区

御祭神・大山祇命 大国主命 茅野姫命

万字炭山の守護神として工業所が護持し、炭山住民の崇敬を集めて経過し、毎年五月十一日に祭典を執行していたが、昭和五十一年三月、万字鉱の閉山後も七十年余に及ぶ炭鉱を偲び、不敬にならぬよう万字の思い出を込めて祭祀を営んでいる。なお、宮司は大正四年以来、小島左近が努めていたが昭和五十一年から栗沢神社宮司が奉仕している。



万字八幡神社 万字地区

御祭神 ・八幡大神

八幡大神を祭神とし、万字市街地の守護神として繁盛の拠り所としてきた神社で、祭典は春が五月十五日、秋は九月十五日として、その前日の宵宮祭、翌日の後宮祭を行ってきた。なお、祭司は万字炭山神社宮司が奉仕していたが、昭和五十一年の万字炭鉱閉山に伴い祭司も栗沢神社宮司が奉仕するようになった。



高德寺 上志文地区

開設 大正九年十一月二十九日



安国寺 美流渡地区

開創 大正四年



勝泉寺 美流渡地区

開創 大正十五年



正滝寺 美流渡地区

開創 明治四十一年



萬念寺 万字地区

開創 大正十五年



妙真寺 美流渡地区

開創 昭和二十五年



専教寺 美流渡地区

開創 大正三年



孝禅寺 万字地区

開創 明治三十八年



(6). 栗沢町地域

砺波神社 砺波地区

御祭神・大己貴命 天活玉神 五十猛命

明治二十七年三月、砺波団体長本田幸彦が富山県東礪波郡国幣小社高瀬神社の分霊を受け、同年十一月、仮の社を団体地の中央に建てて祀り氏神としたのが始まりである。昭和二十九年三月八日、宗教法人の認証を受ける。祭典は春五月一日、秋九月十日であったが農作業の関係上、春は四月十日に変更された。

神職は栗沢神社宮司の兼任。



栗沢神社 本町地区

御祭神・大国主命

当初幸穂神社と称し、必成社農場事務所跡地に明治三十年四月に本殿を造営、社名は滋賀県知事の贈名により幸穂神社と銘じ、御祭神は近江長浜町の県社八幡神社の御分霊を祭る計画であったが間に合わず札幌神社から大国主命の分霊を受けて、明治三十年四月十一日に遷座祭を行った。その後この神社が村の行政上の中心地に所在するので、氏子たちが社格のある村の総鎮守にしたい念願から、社格を有する栗沢神社と合祀し無格社栗沢神社が実現した。



大正八年九月十六日村の総鎮守にふさわしい村社に昇格し、昭和九年十二月二日郷社に昇格したが第二次世界大戦に伴ない社格を失った。春祭り 毎年四月十五日
秋祭り 毎年九月十七日 宵宮祭 九月十八日 例大祭 九月十九日 後宮祭

栗部神社 栗部地区

御祭神・大国主命 応神天皇

明治二十六年、小社を坂東喜助屋敷に建て天照大神、八幡大神を祭ったのが最初で、明治三十四年民意により南七線東八号に社殿を建て神社公称を栗部神社としたが、明治三十九年南七線東九号に遷宮した。明治四十四年、清真布住民の要望で栗部神社を清真布に移転し清真布幸穂神社の祭神を合祀し、翌四十五年栗沢神社と改称して、元栗部神社を栗沢神社の頓宮と改称した。昭和三十年、秋の例祭日の変更のことから本町と栗部の氏子の意見が一致せず栗部神社を再建することになり、天照大神の神霊を元宮に復帰し、大国主命と応神天皇の分霊を合祭して今日に至っている。



耕成神社 耕成地区

御祭神・天照大神

明治二十七年、耕成部落民協議の上現在地に小さな社を建てて天照大神を祭ったのが始まりである。明治三十九年拝殿の改築、昭和六年鳥居の改修、昭和二十七年に神殿拝殿を新築し、二十九年九月、十五号台風にて倒壊し、即改築し、平成二年に志文バイパス道路拡張に付き移転したのが現在の社殿である。春祭りは四月九日、秋祭りは九月九日栗沢神社宮司によって祭典神事が行われている。



高倉神社 北斗地区

香推宮に詣り備前長船住清光詠作の太刀一振りを奉獻し「うつせみの世に永かれと劍太刀捧げまつりて祈りこそすれ」の一首を添えて、御神木のあや杉で作った御劍の分霊を奉載し、成功の守護神と仰いだ。

昭和五、六年頃、札幌に転出するに当たり、神社維持は農場内の町内会に委託された。昭和十九年四月、現在の場所に高倉氏の所有地二百十三坪の提供を受けて移された。昭和三十年四月、拝殿も含めて新改築された。



豊栄神社 北斗地区

御祭神・天照皇大神

明治二十五年、幌向川沿岸住民に神社建立の意が高まり、山田勢太郎氏より現境内地三反歩の寄進を受けてここに社殿を立て、天照皇大神を祭ったもので、本町最初の神社である。例祭は春四月十五日、秋九月十五日で栗沢神社宮司により神事が執行されている。



越前神社 越前地区

御祭神・八幡大神

人煙漸く立ち昇るころ、心の寄りどころとして氏神祭祀の議が起り明治三十七年五月、南十一線東二号南に当時の所有者新保常吉氏の神社敷地寄贈と、堂本文太郎氏の建設資材の寄贈に寄り神殿を造営し、八幡大神様を奉遷申し上げ八幡神社の氏神とした。昭和三年越前地区の造田が進み、北海土功の敷地となり移転することになって現在地を西保源七、荒木金松両氏よりそれぞれ土地一反歩宛寄贈を戴き、昭和三年十一月十日、神殿を新築鎮守遷宮が行われた。平成六年九月十二日本殿の修理と上屋新築工事が完了し盛大に落成式が執り行われた。



自協神社 自協地区

御祭神・天照皇大神

明治二十八年に建立されたが、現在の社殿が作られたのは昭和十六年で、平成3年に大改造を行った。祭神は天照皇大神である。例祭は春四月十二日、秋九月十二日である。



小西八幡宮 小西地区

御祭神・天照大神 八幡大神

明治二十七年、小西和氏が郷里四国長尾村の鎮守宇佐八幡宮より分霊を受けて、南十五線東七号付近に祀った。又、和泉小一郎氏は、郷里四国西の庄より冠八幡宮の分霊を受け、南十三線沿いに祀った明治三十六年四月、部落協議の結果、南十五線東七号に二社合わせて冠尾八幡神社と名づけて祀った。現在の社殿は、昭和二十四年に新たに造営したものである。例祭日は四月八日と九月八日で、当日は栗沢神社宮司によって神事が奉仕されている。



岐阜西神社 岐阜地区

御祭神・八幡大神

明治二十六年、殖民社農場が現在地に仮社を建て、同四十一年神社及び拝殿を造営し岐阜県稲葉郡芥見村神社の分霊を受けて祭った。昭和十五年、岐阜明昭両郡落合併後は両神社と称し、昭和二十八年より氏子総代制を取っている。祭典は四月十一日と九月十一日で、栗沢神社宮司によって神事が行われている。



岐阜東神社 岐阜地区

御祭神・八幡大神

明治二十六年、岐阜県山県郡世保神社の分霊を受け、仮社を建てて祭り明治三十四年、神殿拝殿を新築遷宮したが、大正十一年、境内が夕張川治水用地として買収されたので、現在地に移転した。のち後藤神社を合併し、岐阜、明昭両郡落合併後は、岐阜東神社と称している。祭典は四月十一日と九月十一日で、栗沢神社宮司によって神事が奉仕されている。



加茂川神社 加茂川地区

御祭神・天照皇大神

明治三十九年、加茂川神社建設の議がおこり、社殿を新築し、伊勢神宮の大森を奉祭して守護神とした。現在の社殿は、その後修理が加えられたものである。祭例は、春四月十日、秋九月十日である。



栗丘神社 栗丘地区

御祭神・天照大神

明治二十五年に、現在の十字路の東方約五十メートルの地点に社殿を建設し、天照大神を祭って部落の安泰と発展を祈った。大正二年頃、現在地に遷座し、社殿は昭和十九年に建設したものである。春の祭典は四月九日、秋は九月九日ともに栗沢神社宮司によって神事が奉仕されている。



由良神社 由良地区

由良地区には、明治三十一年の「由良神社」 明治三十七年の「大沢神社」が創設されていたが、一部落一社が望ましいとの世論が盛り上がり、昭和四十四年、大沢神社の祭神を由良神社に合祀することとなり、これを機会に社殿を新築した。



茂世丑備後神社 茂世丑地区

御祭神・八幡大神

茂世丑備後神社は、現在の茂世丑地区集会所の隣にあり、八幡大神を祀った神社である。その創設は明治三十四、五年の頃であり、備後団体移住者たちの心の支えとなっている。



保真神社 茂世丑地区

当初の設置時期、祭神不詳。当初阿部の坂頂上附近新井徳三郎地先に遷宮されたが、昭和三年七月十七日現在地に移転した。当初木造社殿であったが昭和四年現在の石碑とした。神社境内敷地五畝歩

大祭 春 社日

秋 九月十三日



三の沢神社 茂世丑地区

御祭神・天忍穂耳大神 天照皇大神

少名彦名大神 大名巳貴大神

彦火々出見大神

富塚農場主富塚鶴太郎が、徳島県阿波より八幡大神の分霊を携えて祀ったのが始まりで、現在三の沢会館内に鎮座している。



茂世丑神社 上幌地区

御祭神・大巳貴神 天活玉神

五十猛命 菅原道真

明治三十年、中島多七が仮宮を建て、富山県国幣小社高瀬神社の分霊を受けて祭ったに始まり、同四十一年四月小川孫吉、斉藤右衛門の兩人相謀って、富山県東砺波鎮守北の天満宮の分霊を受け、伊藤清作より一反歩の寄進を受けてそこに社殿を建てて合祭した。それ以来、移住者の増加に伴って氏子の数も増え明治四十一年八月無格社に列せられた。昭和二十八年六月十四日に栗沢神社、砺波神社に先がけて宗教法人としての認証を受け現在に至っている。以来地域住民の尊崇心により護持されて経過し、態様は境内地三百坪、営造物社殿九坪である。祭典は、春は四月十三日、秋は九月十三日であり、神事は岩見沢神社宮司により執り行われている。



上幌神社 上幌地区

御祭神・天児屋根命 八幡大神 天活玉神

白山比叶命 大国主命 菅原道真公

明治二十九年来、各部落に開拓者移住と共に奉斎していた六社を合併して、昭和三十五年栗沢町有地の払い下げを受け、新たに社殿を造営し六社の神々を奉斎し創祀しました。部落名を以て社名とし、以来地区一円の守護神として氏子の尊崇厚く今日に至っています。昭和三十六年神社本庁社統理に承認され、傘下の神社に列格した。神社の大祭は春四月十三日 秋九月十三日に行われています。



宮村八幡神社 宮村地区

御祭神・天照大神 八幡大神 春日大神

明治三十二年、当時の農場監督者重山牧三郎氏が、現在の福祉センター北側に仮神社を建設したのが始まりで、同三十七年四月重山牧三郎、河合寅吉、河野儀平、坂本六蔵、織田平太郎、糸崎吉三郎らが発起人となり農場小作人一同の賛成、寄付を得て社殿を新築した。昭和四十九年には、当時の神社総代、連合会長が中心となり、七十有余年地域を守り続けてきた社殿が老朽化したため改築し、住民の心のよりどころとなっている。



清真寺 本町地区

明治二十八年に原谷魏城師が必成社の土地に私設説教所を設け、布教のかたわら必成社主監西田市太郎の依頼を受けて、私立幸穂小学校を開き、南小学校が開設されるまで児童教育に当たったのに発している。魏城師は明治三十年に若くして雄図半ばに死去した後は、甥の實師が継承し、同三十五年に現在地に本堂を落慶して移転、同四十年七月二十二日に清真寺の寺号公称が認可されて開基住職となった。



賢誠寺 本町地区

開創 明治44年7月1日



浄光寺 本町地区

開創 明治40年



興宗寺 本町地区

開創 明治二十八年



常照寺 砺波地区

開創 明治二十六年十二月



報恩寺 栗部地区

開創 明治二十七年



西福寺 岐阜地区

開創 明治三十年



常宝寺 由良地区

開創 明治二十九年



性顕寺 上幌地区

開創 明治三十年



(7). 北村地域

振興神社 赤川地区

御祭神・少彦名神 大己貴神 国常立尊

昭和三十年頃は、戦後の開拓によって赤川地区も入植者が増え、敬神の念深かった鎌田龍蔵らが中心になり神社建立の話がおこった。鎌田龍蔵が約六畝の敷地を提供したことから話が進み、木曾御岳山より御分神を奉祀して神社を建立することになった。昭和三十二年九月、大山孫助より社殿を譲り受け、御神体を奉祀するとともに鳥居を建立した。



赤川神社 赤川地区

御祭神・天照皇大神

明治四十一年春、新谷亀松氏外八人余の人々によって一尺角に神明を書した社標が建てられ創祀奉祭されたと伝える。大正元年九月海老江亀次郎氏によって社殿を造営し伊勢神宮より御神霊を迎へ奉祀する。その後三回の風害によって倒壊、ことに昭和二十九年の十五号颱風により拝殿が全壊、翌年三月有志一同の尽力により新築成る。昭和五十三年神殿及び鳥居の腐朽に依り社殿を現在地に新築し遷座する。



伏見稲荷神社 赤川地区

御祭神・伏見稲荷大明神

明治四十年頃、岩見沢青木の鎌田長左エ門氏が赤川に移り、青森県館腰神社より御神体を分け現在地に奉迎創祀する。昭和二十九年門脇杉蔵氏、真鍋勝重氏、藤田丹次郎氏、平井伊吉氏、立花八十治氏らが再建を協議推進、岩見沢の赤木氏、野々川氏の二人が浄財を集めて寄進を申し出る。同年九月の十五号台風に遭うも建立がかなう。



栄町神社 栄町地区

御祭神・素戔鳴命 稲田比売命

昭和五年美唄川沿岸開発によって人口が増加し、赤川から分離したが、この時に神社建立の議が起り、岡庄太郎・仁木百蔵・安藤慶一郎らを中心にこの議がまとまり、仁木百蔵が京都東山区祇園町官幣大社八坂神社から御分神の神鏡を迎え、昭和五年九月十二日社殿を建立した。昭和二十五年九月、総工費十五万二千元で神殿の改築ならびに拝殿の増築を行った。



北村神社 北都地区

御祭神・天照大神 大国魂神 少彦名神 大己貴神

大正八年札幌神社より開拓三神の御分霊を戴き北村神社として創建する。創祀は明治二十八年宇野農場管理人白石武資氏が農場事務所近くに角材で天照大神の神標を建立奉祭したのを起原とする。後に神標は大安寺の西に遷され祭祀を継承する。大正八年北村神社創建に当り森農場其の他の神社と共に合祀される。昭和十三年社殿改築並に遷座斉行。昭和十七年村社に昇格。昭和二十八年宗教法人登記、北村総鎮守として崇敬されている。



諏訪神社 美唄達布地区

御祭神・建御名方命 八坂刀売命

開創 明治四十年九月十八日

当初美唄達布の大半は長野県諏訪の片倉組の農場であり農場管理者小木曾文太郎氏が開拓の守護神として故郷の諏訪明神を奉祀すべく、最古参地主の高岡嘉平氏の賛成を得て安達甚左エ門氏、広川徳松氏らの協力のもとに官幣大社諏訪神社から御分霊を奉載創祀する。神殿は葦葺き、四尺四方、拝殿は間口九尺奥行二間で現在の社殿より五、六間川沿に建立。昭和十三年現在地に新築され昭和三十二年増築される。



幌達布神社 幌達布地区

御祭神・建御名方命 八坂刀売命

天照皇大神

明治二十八年、葦葺の神殿を造営したのが幌達布神社の始まりであるが、未曾有の大水害により神社が流失する厄があったり、治水工事の関係上遷宮することが度重なったが、昭和九年現在地に遷宮した。これが今日の幌達布神社である。



砂浜神社 砂浜地区

御祭神・熊野坐神 熊野速玉神
熊野夫須美神

昭和二十一年まで砂浜の熊野神社として年々祭典を執行されてきたが、二十二年神殿を改築し昭和二十八年名称を砂浜神社と改めた。



豊里神社 豊里地区

御祭神・大国魂神 少彦名神 大己貴神

豊里地区はもとは北村神社の氏子であったがお詣りには遠い事もあり一家親族が崇祀の念を通じて一層の加護にあずかろうと、小西四郎氏、田中善作氏らの働きにより、昭和二十六年現在の地に社殿を新築し北村神社より御分神を迎え創祀する。昭和三十年拝殿新築成り。昭和四十年 鳥居の改築と本殿の修理がなされた。



豊正神社 豊正地区

御祭神・戸隠神社 天手力男命
天照皇大神

明治三十一年二月、吉川栄蔵の主唱により同志の人々、信州戸隠神社の御神霊をいただいて柳の大木付近に祠を建立して「戸隠神社」と称した。その後、峰延道路にあった天照皇大神社の社標と大正七年に合祀、もとの教育所跡に神殿を建立し「豊正神社」と称した。大正八年五月、現在の地に移転造営した。



中小屋神社 中小屋地区

御祭神・天照皇大神

開創年月日不詳 昭和十一年以前

畠山喜助が発起人となり一社を建立した。中小屋の住民の住民氏子によって維持されている。当時は旧美唄川沿いの橋場正吉宅と武部義徳宅の中ほどに建てられていた。その後昭和二十九年の十五号台風の翌年に旧美唄川の築堤工事によって現在の武部宅近くに移住されたものである。



北村大願神社 大願地区

御祭神・石清水八幡宮 菅田別尊

息長帯姫尊 比売大神

開創 昭和二年九月十二日

大願地区もだんだんと開拓が進み、住民も多くなってきて、信仰の中心を求める機運になってきた。ちょうど伊藤喜吉が郷里津軽の八幡宮を厚く尊信しているのを見た当時の区長佐藤俊平は、神社創設の発起人となりまず有志と計り、さらに全般の相談をまとめ、京都府綴喜郡八幡町男山石清水八幡宮（官幣大社）の御分霊を祭祀することになり、神社を創建して北村大願神社と称した。



浄土寺 豊里地区

開創 明治二十八年七月

明治二十六年山梨県人北村雄治弱冠の身をもって、当地石狩川沿岸一帯の地の払下げを受けるや、開拓の要領を時の北海道庁長官北垣国道に謀ったところ、北垣長官はまず移民に対する宗教的教化の必要と、その子弟に対する教育をゆるがせにすべきでないことを要諦とすると訓し、かつ雄治の要請を入れて、東京府知事富田鉄之助に依頼してくれた。たまたま東京に遊学中の青年僧霜田教善を推薦した。教善は明治二十八年七月現地に移住してもっぱら布教弘通に従事するかたわら、寺子屋式教育を行った。明治三十二年十月、前内務大臣品川弥次郎（号念仏庵）北村農場の開拓の進捗したことをたたえ、とくに北村超世山浄土寺なる所在地名山号ならびに寺号を親しく選定し、自ら筆を執りこれを寄進した。明治三十六年九月その筋から公称の許可があった。品川子爵の寺山号の真跡と、富田東京府知事の書とは現に浄土寺に保存されている。



大安寺 中央地区

開創 明治二十五年



宝栄寺 幌達布地区

開創 明治二十五年六月

